

GREECE (ギリシャ)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

10月下旬でも日中は20度近くまで上がるアテネでは、屋外ではマスクなしで多くの人が行きかっています。そんな中、残念ながらコロナウィルスの感染は再拡大の兆しを見せており、11月1日に報告された感染者数は、コロナ後最大人数を記録してしまいました。首都アテネを中心としたアッティカ県と、ギリシャ第二の都市テッサロニキにおいて、感染の拡大が見られます。

日本からの入国情報	[10月28時点] EU、シェンゲン協定加盟国及び日本やオーストラリアなどからの入国については自主隔離は免除されていますが、入国72時間以内の陰性検査証明類の提示は義務付けられています。なお、日本で発行されたワクチン接種証明書は入り者の入国にあたり有効とされています。
国内の感染状況 ワクチンの接種状況	2021年10月30日時点のワクチン接種状況 (全人口比) 1回以上接種：62.0% 必要回数接種：59.5% 総感染者数 : 2021年10月29日時点 731,167人 一週間の感染者数 : 2021年10月11日～10月17日 16,718人 2021年10月18日～10月24日 22,086人
DCC (Digital Covid Certificate) 運用状況	[10月28日時点] ギリシャもDCCの運用が開始していますが、EU以外の第三国からの外国人は書面での提示でよいとされています。レストラン（屋内）や博物館（屋内）の入場の際に提示が求められます。
マスク着用義務	[10月28日時点] 屋外でのマスクの着用の義務が撤廃されましたが、屋内及び公共交通機関内では引き続きマスク着が義務付けられています。
レストラン	[10月28日時点] レストラン・カフェは屋内でもを営業を開始していますが、屋内に入るには「ワクチン接種後2週間経過している」証明を提示することが義務付けられています。この措置は2022年3月末まで続行する予定です。
ショップ	[10月28日時点] 全ての店舗が再開、店舗の面積によって入店制限はあります。店舗内ではマスク着用義務。営業時間については特に規制はありません。

HUNGARY (ハンガリー)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

ハンガリーでは大学が対面授業を再開し、交換留学生らしきグループを多く見かけるようになりました。その影響もありカフェに行くと満席で座れないこともあります。カフェチェーン店のCosta Coffeeがコロナの影響でハンガリーから撤退してしまい、現在も営業しているお店にお客さんが集中しているようです。新規にワクチンを接種した人はこの1か月で約4万人と伸び悩んでいます。最近では新規感染者数がまた増えていますが、ワクチンのおかげで重症者数はそれほど増えておらず、政府は大規模な規制導入には消極的です。規制を行う場合はワクチンの未接種者を対象にする、マスクの着用など小規模なものになるのではと報道されています。

日本からの入国情報	[10月26日時点] 観光目的での入国が可能となっています。72時間以内のPCRテストでの陰性証明が入国に必要。入国時の隔離義務も免除となっています。
国内の感染状況 ワクチンの接種状況	2021年10月28日時点のワクチン接種状況(全人口比) 1回以上接種：61.8% 必要回数接種：59.6% 総感染者数：2021年10月29日時点 863,419人 一週間の感染者数：2021年10月11日～10月17日 5,705人 2021年10月18日～10月24日 10,710人
DCC (Digital Covid Certificate) 運用状況	[10月29日時点] 7月1日からハンガリーでもDCCの運用が開始されました。EU居住者はDCCでハンガリーに入国することができます。ただハンガリーは先行して独自の免疫証明書(プラスチックカード)を発行しており、ハンガリー居住者でワクチン接種者、コロナ回復したものはこの免疫証明書を使用していました。現在は規制の多くが緩和しておりDCCを提示する機会はありません。DCCのダウンロードが難しく、ハンガリー人には評判はよくありません。
マスク着用義務	[10月26日時点] 接種者数が550万人を超えた際、屋外や店舗、公共交通機関でのマスク着用義務などがなくなりました。現在着用義務が残っている箇所は医療機関や社会保障施設など一部のみとなっています。
レストラン	[10月26日時点] 接種者数が550万人を超えた際、レストランへの規制撤廃されました。DCCまたは免疫証明書の提示義務も無くなり、店内飲食可、マスク着用義務の撤廃、営業時間の規制は無くなりました。
ショップ	[10月26日時点] 店舗への規制は撤廃。人数制限やマスク着用義務も撤廃されています。

ITALY (イタリア)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

ヨーロッパ最大級のチョコレートの祭典Euro chocolate 2022が10月15日に開催されました。今年例年開催されているペレージャではなく、ペレージャ近郊都市にて開催され、多くの観光客で賑わっていました。国民の約77.8%がワクチンを1回以上接種しており、必要回数のワクチン接種完了71.4%と、どちらも70%を超えました。ヨーロッパ、またアメリカからの旅行者もますます増え、活気溢れる光景を目にすることができます。

日本からの入国情報	[10月22日時点] ワクチン接種証明及び陰性証明を提示することにより。入国後の自己隔離は免除となります。いずれかを提示できない場合は入国後5日間の自主隔離。イタリア入国前のデジタルフォーマット（宣誓書）入力義務があります。イタリア入国においては日本のワクチン接種証明書が有効です。
国内の感染状況 ワクチンの接種状況	2021年10月28日時点のワクチン接種状況(全人口比) 1回以上接種：78.3% 必要回数接種：72.4% 総感染者数：2021年10月29日時点 4,757,231人 一週間の感染者数：2021年10月11日～10月17日 17,426人 2021年10月18日～10月24日 21,998人
DCC (Digital Covid Certificate) 運用状況	[10月22日時点] 必要回数のワクチン接種後、2～3日で保健局からDigital COVID Certificateの登録案内のメールが届き、必要事項を入力して登録が完了します。飲食店（屋内席）やスポーツジム、美術館、テーマパーク、（州間を移動する）飛行機、長距離列車、長距離フェリーなどに乗車する際にもグリーンパスが義務化（公共交通機関は除く）。10月15日よりすべての労働者に証明書保持を義務付けました。
マスク着用義務	[10月22日時点] 屋外でのマスク着用義務が解除されましたが、政府は外出の際はマスクを持ち歩き、人混みではマスクを着用するよう呼び掛けています。屋内の公共の場でのマスク着用は引き続き義務付けられています。
レストラン	[10月22日時点] 州/県/市によりホワイト・イエロー・オレンジ・レッドとレベル分けされ、レッド・オレンジでは営業は禁止。イエローでは、営業は5時～18時まで。現在は全ての州がホワイトゾーンのため、店内での飲食が可能。但し、店内での飲食には、グリーンパスが必要。
ショップ	[10月22日時点] 小売り商業活動は、1mの対人距離に加え、入店人数および顧客の店内滞在時間を調整することを条件に、営業可能。スーパーマーケット、小売店、ショッピングモールへの入店にグリーンパスの提示は必要なし。

IRELAND (アイルランド)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

レストランなどで残っていた規制が10月22日にほぼ解除となり、残る規制は一部のみとなりました。現在も店内や公共交通機関でのマスク着用義務は残っており、店内で飲食するためにはワクチン証明の提示が必要ですが、感染率もワクチン接種により一段落しています。ハロウィン発祥の地と呼ばれるアイルランドなので、今年は例年通りの賑やかなイベントが各地で催されます。

日本からの入国情報	[10月28日時点] 7月19日より、ワクチン接種者、または完治者は到着時の検査及び自己隔離の必要はありません。それ以外の者は、陰性証明書の提示、自己隔離及び到着後にPCR検査の受検が求められます。また、日本で発行されたワクチン接種証明はアイルランドにおいて有効となりました。
国内の感染状況 ワクチンの接種状況	2021年10月27日時点のワクチン接種状況 (全人口比) 1回以上接種：76.3% 必要回数接種：75.0% 総感染者数 ：2021年10月29日時点 438,124人 一週間の感染者数 ：2021年10月11日～10月17日 11,961人 2021年10月18日～10月24日 14,418人
DCC (Digital Covid Certificate) 運用状況	[10月28日時点] 7月19日からDCCの運用開始。ワクチン接種を受けた人、コロナから回復した人または検査結果が陰性であった人は、認証のためのQRコードが印刷された「COVID-19パスポート」を申請することができます。
マスク着用義務	[10月28日時点] 13歳未満の子供及び医療上の理由でマスクを着用できない人を除き、以下の場合においてマスクの着用が義務付けられています。公共交通機関を利用する場合に立ち入る公共エリア（駅、空港含む）、店舗やスーパーマーケットなど。違反すると初犯で80ユーロ、更なる違反で最大1,000ユーロまで倍増します。
レストラン	[10月28日時点] 13歳以上の者最大6人が一つのテーブルに着席可でしたが、最大10名まで着席可能に。店内飲食のためのワクチン証明の提示は引き続き必要となります。
ショップ	[10月28日時点] 全てのお店が通常営業を再開済みです。

NETHERLAND (オランダ)

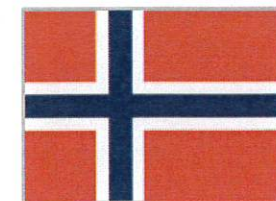


ヨーロッパから現地の声をお届けします！

ワクチン接種率が70%近くになっているにもかかわらず、最近では新規感染者数が増しており、オランダは感染コードがレッドになってしまいました。しかし、重症者数、死亡者数は減っており、政府の予測の範囲内とのことです。1.5Mのソーシャルディスタンス、多くの場所でのマスク着用が撤廃され、国内の様子はマスク着用が必要な一部施設を除きコロナ以前の状態に戻っている印象です。知っている限りブッフェ形式のレストランでも食べ物にカバーはされていません。

日本からの入国情報	<p>[10月25日時点] EUの安全国リストから日本が除外されたことを受け、9月16日より日本がハイリスク国に指定されました。ただしワクチン接種証明書の保有者は、通常の入国審査にてオランダに入国可能（入国目的による入国制限なく、陰性証明の提出も不要）。日本で発行されるワクチン接種証明はオランダ入国時に利用可能です。ワクチン接種証明書を所持していない人は入国制限があり、例外として認められた人のみ入国可能。陰性証明の提出要。</p>
国内の感染状況 ワクチンの接種状況	<p>2021年10月1日時点のワクチン接種状況(18歳以上の人口比) 1回以上接種：86.5% 必要回数接種：78.4% 総感染者数： 総感染者数：2021年10月1日時点 2,003,050人 一週間の感染者数： 2021年9月13日～9月19日 14,461人 2021年9月20日～9月26日 11,697人</p>
DCC (Digital Covid Certificate) 運用状況	<p>[10月25日時点] CoronaCheckというアプリをダウンロードして利用します。オランダのソーシャルセキュリティー番号を入力する事により、ワクチン接種の履歴が自動で読み込まれ、ワクチン接種証明のQRコードが表示されるので、レストラン等でそのQRコードを提示します。オランダ国内用と国外用にQRコードを切り替える事ができます。</p>
マスク着用義務	<p>[10月25日時点] 旅客機、公共交通機関内、医療機関内のみマスク着用が義務となっています。違反者には95ユーロの罰金が課されます。</p>
レストラン	<p>[10月25日時点] 24:00まで営業可能。16歳以上の人の店内飲食にはCoronaCheck appやワクチン接種証明書等の提示が必要。テラス席での飲食では不要。</p>
ショップ	<p>[10月25日時点] コロナ以前の通常の営業時間通りで営業可能。</p>

NORWAY (ノルウェー)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

9月25日にコロナウィルス規制の全面解除が行われ、ノルウェーの人々の生活はコロナ以前とほぼ変わらない形に戻りました。長年運休していたベルゲンのUlrikenロープウェイがリニューアルオープンし、弊社オスロスタッフも久しぶりにベルゲンへ行ってきました。代わりにフロイエンのケーブルカーが来年4月まで工事のため運休していますのでご注意ください。

日本からの入国情報	[10月22日時点] ノルウェーの滞在許可を持っていない日本人は、原則としてノルウェー入国不可。また例外的に日本からノルウェーに入国した人は、事前の入国登録、ノルウェー入国前24時間以内に受検したの陰性結果証明の提示、および10日間の自己隔離が求められます（隔離ホテルの滞在義務は廃止されました）。
国内の感染状況 ワクチンの接種状況	2021年10月25日時点のワクチン接種状況(全人口比) 1回以上接種：78.1% 必要回数接種：69.31% 総感染者数：2021年10月29日時点 203,742人 一週間の感染者数：2021年10月11日～10月17日 2,812人 2021年10月18日～10月24日 4,151人
DCC (Digital Covid Certificate) 運用状況	[10月22日時点] 6月から運用開始。ワクチン接種後、オンラインにて取得可能。国内仕様とEU仕様の二種類。現時点では国内ではほとんど使用することではなく、出入国時のみ使用。国内仕様は一回目のワクチン接種から三週間後に有効となる（表示される色が赤→緑に変わる）
マスク着用義務	[10月22日時点] 9月25日より規制全面解除。 10月中旬よりノルウェー主要航空会社の北欧内フライト機内、及び、唯一規制が残っていたオスロ空港構内でもマスク着用義務撤廃となりました。北欧外から/へのフライト機内はまだ着用義務となっていますのでご注意ください。
レストラン	[10月22日時点] 9月25日より規制全面解除。
ショップ	[10月22日時点] 9月25日より規制全面解除。

PORTUGAL (ポルトガル)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

10月1日の3段階目の規制解除ともない全面解除となった規制も多く、テレワーク推奨も解除されたため、朝晩は公共交通機関でも以前のような混雑が目立つようになってきました。レストランなどの飲食店では現在お客様のマスク着用義務はありませんが、市民のほとんどは引き続きマスクを着用しており、マスクをしていないのは主に外国人観光客のようです。同様に公道でも市民のほとんどがマスクを着用しています。バーやクラブが営業を再開し、週末の夜は若い人たちが繁華街で大勢集まり、問題になることもありました。

日本からの入国情報	[10月25日時点] 9月17日EUの安全国リストから日本が除外されたことを受け、渡航目的が必要不可欠なものに限られることとなりました。また、日本で発行されたワクチン証明書はポルトガル入国時に認められません(相互主義)。いずれにしろ、き陰性証明の提示、入国前のデジタルフォーマットの入力が義務付けられています。
国内の感染状況 ワクチンの接種状況	2021年10月25日時点のワクチン接種状況(全人口比) 1回以上接種：87.4% 必要回数接種：86.0% 総感染者数：2021年10月29日時点 1,088,133人 一週間の感染者数：2021年10月11日～10月17日 4,528人 2021年10月18日～10月24日 5,193人
DCC (Digital Covid Certificate) 運用状況	[10月25日時点] 必要回数のワクチン接種後、3日目からオンラインにて取得可能。ワクチン接種証明、陰性証明、回復証明の3つから選びダウンロードします。空路及び海路による移動、大型イベントへの参加、バーやクラブへの入店、老人ホーム及び病院などの医療施設(お見舞い等の場合)において提示を求められます。
マスク着用義務	[10月25日時点] 公共交通機関、医療施設、老人ホーム、コンサートホール、映画館、会議場、イベント会場、400㎡以上のショッピングセンター、美容院等顧客との物理的接触が発生する店舗内、役所、学校(屋内のみ)において10歳以上でマスク着用が義務付けられています。
レストラン	[10月25日時点] 10月1日よりバー、クラブが営業を再開、ただしワクチンもしくは陰性証明携帯義務あり。飲食店の人数制限などの規制は全面解除。従業員のマスク着用は義務とされていますが、顧客はその限りではありません。
ショップ	[10月25日時点] 10月1日からの制限緩和:店舗内人数制限の解除

SPAIN (スペイン)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

夏の観光シーズンが終わり少し落ち着きましたが、引き続き他のヨーロッパの国などからの観光客を多く見かけます。現在、屋外でのマスクの使用義務はありませんが、人が多い場所などでは、引き続き自主的にマスクを着用している市民が多く見られます。また、感染防止策を厳格に順守した上で、コンサートなどの大型イベントが再開しています。市民はコロナ前とほぼ変わらない、通常通りの生活を送っています。

日本からの入国情報	[10月22日時点] 日本から「旅行者」として入国の場合、ワクチン接種証明の提示が義務付けられています（陰性証明や回復証明では受け付けてもらえません。EUに居住許可を持つ日本人は、ワクチン接種証明、陰性証明、感染後回復証明のいずれかでOKです）。入国後の隔離義務はなく、入国後のPCR検査などの義務もありません。
国内の感染状況 ワクチンの接種状況	2021年10月28日時点のワクチン接種状況(全人口比) 1回以上接種：80.3% 必要回数接種：78.8% 総感染者数：2021年10月29日時点 5,008,888人 一週間の感染者数：2021年10月11日～10月17日 10,250人 2021年10月18日～10月24日 12,233人
DCC (Digital Covid Certificate) 運用状況	[10月22日時点] 出入国時にEU DCC使用可能。入手方法は居住する州により異なります。商店やレストランの入店時や公共交通機関などでの提示義務はありませんが、一部のディスコやナイトクラブでは入店時に提示が求められるケースがあります。
マスク着用義務	[10月22日時点] 屋外で1.5メートルのソーシャルディスタンスを確保できる場合、マスクの着用義務はありません。屋内（公共交通機関含む）は引き続きマスクの着用が義務づけられています（6歳未満は適用外）。屋外でも人が多い場所などでは、引き続き多くの市民が自主的にマスクを着用しています。
レストラン	[10月22日時点] 州により異なります。マドリード州では10月4日に規制が大きく緩和され、営業時間や入店者数に関する制限は全て撤廃されました。カタルーニャ州ではレストランの営業は深夜2時30分まで営業可。店内収容人数の制限なくなりました。1テーブル最大人数の制限なくなりました。
ショップ	[10月22日時点] 州により異なります。マドリード州では、10月4日に規制が緩和され、営業時間や入店者数に関する規制が全て撤廃となりました。カタルーニャ州も同じく、商業施設の営業時間制限、収容人数制限なし。

SWEDEN (スウェーデン)

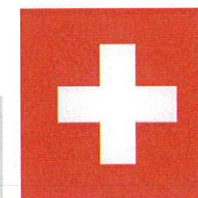


ヨーロッパから現地の声をお届けします！

今までも北欧内では一番以前の生活に近い形で緩めの制限・推奨策が取られて通常の生活が送られていましたが、9月29日（水）に大型イベントの入場人数制限なども撤廃され、事実上コロナ規制の完全撤廃となり、日常生活が戻っています。

日本からの入国情報	[10月25日時点] 9月20日から再び入国禁止措置が適用されることになりました。これにより、入国禁止措置の免除事由がない場合には、日本の住民が日本からスウェーデンに入国することはできなくなります。
国内の感染状況 ワクチンの接種状況	2021年10月28日時点のワクチン接種状況(全人口比) 1回以上接種：70.0% 必要回数接種：66.6% 総感染者数：2021年10月29日時点 1,170,429人 一週間の感染者数：2021年10月11日～10月17日 4,085人 2021年10月18日～10月24日 4,370人
DCC (Digital Covid Certificate) 運用状況	[10月25日時点] 現状、国内で使用の機会はなく、出入国時に使用のみ。ワクチン接種完了7日以内に国のワクチンデジタル登録されるので、その後ウェブ上でパーソナル番号等を入力して取得します。
マスク着用義務	[10月25日時点] 9月29日より規制全面解除されました。
レストラン	[10月25日時点] 9月29日より規制全面解除されました。
ショップ	[10月25日時点] 9月29日より規制全面解除されました。

SWITZERLAND (スイス)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

10月に見本市やコンGRESが開催されるようになり、11月はアジアからのインセンティブツアーも来はじめました。スイスを観光していただく上で支障のない環境になっています。公共交通機関と店内のマスク着用以外は規制は感じずに生活や娯楽は楽しむことができ、ほぼ通常通りです。COVIDパスの導入によって、レストランや博物館への入店、入場は厳しくなりましたが、ワクチン接種済みであれば特に問題は感じず社会活動は可能です。

日本からの入国情報	[10月25日時点] 基本的にワクチン接種済みの方は渡航元の地域、国籍関係なくテスト・隔離なしで観光目的でも入国可能です。ただし、多くの航空会社がPCR陰性証明を求めているため注意が必要です。空路・陸路・水路関係なく入国フォームの事前記入が求められます。接種済みではない日本人は観光目的の入国は9月27日以降は不可能となりました。
国内の感染状況 ワクチンの接種状況	2021年10月28日時点のワクチン接種状況(全人口比) 1回以上接種：66.1% 必要回数接種：63.6% 総感染者数 ： 2021年10月29日時点 868,894人 一週間の感染者数 ： 2021年10月11日～10月17日 6,201人 2021年10月18日～10月24日 8,631人
DCC (Digital Covid Certificate) 運用状況	[10月25日時点] 以下の場合にCOVID証明書が必要となります。飲食店、文化施設、レジャー施設、屋内で開催されるイベントなど屋内に入る場合。10月19日より、欧州医薬品庁(EMA)が承認したワクチンを海外で接種した方で、スイスに居住または渡航する方は、スイスCOVID証明書を取得できるようになりました。
マスク着用義務	[10月25日時点] 12歳未満の子供を除き、以下の場合においてマスクの着用が義務付けられています。店舗、ショッピングセンター、銀行、郵便局、美術館・博物館、図書館、映画館、劇場、動植物園の屋内空間、レストラン&バー(テーブル着席時は対象外)、カジノ、ホテル(客室を除く)、医療機関、教会、職場、官公庁、スイスに離着陸するすべての定期便及びチャーター便利用時等。
レストラン	[10月25日時点] レストランの室内(ホテルの朝食含む)へのアクセスはスイスCOVID証明書の提示は求められます。室外やTake Awayは対象外です。室内のみ移動時のマスク着用とトレーシングができる措置の実施の義務有り。
ショップ	[10月25日時点] マスク着用義務のみ。

UNITED KINGDOM (イギリス)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

10月24日から海外からの帰国者は(レッドリスト国からの帰国者を除き) ラテラルフロー検査のみとなり、イギリス国民の海外渡航熱が活発になっています。変異株の影響によりコロナでの感染者を減らすことが難しい状況下でも、コロナによる重症化、死者数は想定内で急上昇はしていないという政府の判断により、規制などを開始する予定は当面無いとされています。市中での規制はほぼ見られず、政府としては現在は15歳以下へのワクチン接種の加速、50歳以上若しくはコロナに感染すると重症化する可能性のある者にもブースター接種の加速を行う予定です。なお、引き続き一部ではマスク利用が必須となっています。

日本からの入国情報	[10月28日時点] 10月4日以降、信号システムを見直します。日本は「レッドリスト以外」に分類され、ワクチンを完全に接種している場合、乗客追跡フォームの入力と入国後2日目の検査受検（ラテラルフローで対応可）のみで入国可能となります。（出発前検査、自己隔離等が不要となります）
国内の感染状況 ワクチンの接種状況	2021年10月28日時点のワクチン接種状況 (全人口比) 1回以上接種：74.3% 必要回数接種：68.0% 総感染者数 ：2021年10月29日時点 8,936,159人 一週間の感染者数 ：2021年10月11日～10月17日 283,756人 2021年10月18日～10月24日 330,465人
DCC (Digital Covid Certificate) 運用状況	[10月28日時点] イギリスでは、NHS COVID Passが運用されています。
マスク着用義務	[10月28日時点] イングランドでは法的な義務では無くなるが、引き続き11歳未満の子供及び医療上の理由でマスクを着用できない人を除き、以下の場合においてマスクの着用が求められています。ロンドン市内で公共交通機関を利用する場合に立ち入る公共エリア（駅、空港も含む）、多くの店舗やスーパーマーケットなど。スコットランドやウェールズ、北アイルランドでは引き続き着用が義務付けられています。
レストラン	[10月28日時点] 制限は撤廃されています。 一部地域では、引き続きレストラン利用者の連絡先を求めたり、離席をする際はマスクの着用を求められます。
ショップ	[10月28日時点] イングランドだけでなく、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドで制限撤廃。 ※但し、屋内ではマスク着用の義務がある国や必須とするショップもあります。